

# 泌尿器科【1年コース】

## 1. 対象

2年間の初期研修を終えた医師を対象とする。

## 2. 研修目的

専門医試験の受験資格を持つには、まず日本泌尿器科学会に入会の上、初期研修修了後の4月から6月の間に学会に対し「泌尿器科専門研修開始宣言」を行う。研修開始宣言後、後期研修として3年間の泌尿器科研修を経て4年目の9月に専門医試験があり、合格すれば4年目修了時に専門医となる。当院の後期泌尿器科研修では、専門医認定に必要な基本的な知識・技術の習得を目指す。

## 3. 一般目標

・泌尿器科専門医の認定に必要な基本的な知識・技術を習得する。

## 4. 行動目標

- 画像検査・核医学検査を読影し診断できる。
  - KUB・IVP・D(P・RP・各種膀胱造影・尿道膜膀胱造影・US(体部US、TRUS、血流検査)が実施でき読影できる。
  - CT・MRI・血管撮影・各種シンチグラムが読影できる。
- 内視鏡検査(膀胱鏡検査・尿管鏡検査など)を実施でき、正確な所見がとれ、分腎尿採取・生検を行うことができる。
- 患者の状態に応じて適切な排尿管理を計画し、必要に応じて自己導尿や留置カテーテル管理を指示し、腎瘻や膀胱瘻を造設できる。
- 経直腸エコーガイド下前立腺生検を安全・確実に施行できる。
- 全身状態を把握し、検査所見からの確な治療方針を決める事ができる。
- 全身状態による的確な術前術後管理ができる。
- 外科基本手技を素早く正確に行える。
- 開創小手術を独力で行える。
- 経尿道的内視鏡手術を独力で完遂できる。(前立腺肥大症・膀胱腫瘍・腎膀胱尿管結石症)
- 指導医の指導下に、腎体腔鏡手術や前立腺悪性腫瘍手術を執刀できる。または執刀を補助できる。

## 5. 研修方略

患者の主治医となり研修をすすめるが、検査・治療は指導医とともに行う。判断の難しい症例は随時または週一回の検討会で方針を詳細に検討する。研修期間を通じ、関連学会に積極的に参加し、泌尿器科におけるさまざまなサブ・スペシャリティ(泌尿器科腹腔鏡手術、泌尿器腫瘍学、小児泌尿器科学、排尿機能学、不妊、生殖医療、婦人泌尿器科学、透析医療など)について知識を深める。

LS	方法	該当SBOs	場所	媒体	人的資源	時間	学習時間
1	実地指導	すべて	病棟・外来		患者さん 上級医 コメディカル		
2	自習	すべて	病棟・外来・ 医局・自宅	書籍	学習者自身		
3	実技のシミュレーション	7-10	医局	ドライ・ ボックス、 手術器械	上級医、 学習者自身		

\*入院患者については随時、外来患者や手術予定&終了患者については毎週水曜日に症例検討会を行っている。

## 6. 週間予定

	午前	午後
月	病棟回診、外来診療	検査・手術
火	病棟回診、外来診療	検査・手術
水	病棟回診、症例検討会、手術	手術
木	病棟回診、外来診療	検査・手術
金	病棟回診、外来診療	検査・手術

## 7. 研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1～10	形成的	知識, 態度, 技能	上級医 看護師	症例経験中	自己評価 観察記録

## 8. 指導責任者, 指導医および上級医

指導医 及び上級医	役職	卒業年	主な資格など	臨床研修 指導医
竹田 篤史 (たけだあつし)	泌尿器科長	1989年	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本小児泌尿器科学会会員、医学博士	○
木村 信吾 (きむら しんご)	泌尿器科医長	2010年	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医	

## 9. 2015年実績

膀胱癌	尿路内視鏡手術	49	膀胱結石	尿路内視鏡手術	6
	開腹手術	2	腎結石	尿路内視鏡手術	7
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	6	小児の停留精巣	精巣固定術	3
	開腹手術	1	真性包茎	包茎手術	3
前立腺癌	開腹手術	3	陰嚢水腫	水腫根治術	5
	除睾術	1	尿膜管	腹腔鏡手術	3
精巣癌	根治手術	2		その他手術	1
陰茎癌	根治手術	0	その他	尿路内視鏡手術	9
前立腺肥大	TUR-p	3		その他手術	3
	TUEB	2			
	HoLEP	4			